

日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 武市 和彦 発行所 日本高齢期運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央5-48-5 シャンポール中野504号
Tel/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com
http://www.nihonkouren.jp

発行：隔月1回
2018年6月1日
No.331



「第27期日本高齢期運動連絡会総会」来賓あいさつ 吉良よし子参議院議員（記事=P1～）

まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう 5・19「第27期日本高齢期運動連絡会総会」ひらく 日本高齢期運動連絡会

日本高齢期運動連絡会は「第27期日本高齢期運動連絡会総会」を2018年5月19日（土）、11時から東京都生協連会館会議室で行いました。参加者は都府県高連から青森・福島・群馬・茨城・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・富山・長野・静岡・愛知・三重・京都・大阪・奈良・兵庫・香川・徳島・愛媛・大分の22都府県25人、中央団体から医福連・民医連・年金者組合・建交労・全生連・新婦人・高齢協・

サポートセンターの8団体11人、来賓含め45人の参加でした。

11時定刻に金子民夫代表委員（年金者組合中央本部委員長）が開会を宣言し、国会の状況を述べながら、安倍内閣の数々の疑惑を明らかにさせ、内閣退陣を求める国民と高齢者の声をあげていこうと挨拶しました。引き続き、議長提案を行い、田中英男日本高齢期運

動連絡会事務局次長（茨城高連）を提案し、満場の拍手で確認しました。

中央社保協事務局長山口一秀氏、日本共産党参議院議員吉良よし子氏、日本共産党都議会議員里吉ゆみ氏から連帯のあいさつがありました。



山口一秀氏



里吉ゆみ議員

武市和彦事務局長代理が以下の議案を提案しました。

【第1号議案】第26期活動報告ならびに第27期活動方針確定の件

この中で『日本高齢者生活協同組合連合会』が加入したことが報告され、紹介されました。

【第4号議案】役員改選の件

中山晴夫事務局次長が以下の議案を提案しました。（役員一覧=P7）

【第2号議案】第26期会計報告ならびに第27期予算確定の件

秋山明子監事が以下の報告を行いました。

【第3号議案】第26期監査報告の件

質問を含めて以下の9名が発言しました。

①後期高齢者医療窓口負担2倍化阻止に向けて、県内5団体で一点の共闘を呼び掛ける。

6/22にスタート集会。5/22に日の出町視察。同保険料不服申請運動も行う（神奈川）

②介護保険で市町の権限強め介護認定を下げる動き。卒業してサロンに誘導し認定下げを競わしている。桑名のガーデン大山で住民による地域包括ケア・助け合い活動を行っている。（三重）

③年金裁判をたたかっている。全国で原告5113人となった。公判は広島では13回だが神奈川は4回目。主張から立証に移っている。（年金者組合）

④地元熱海開催なので企画づくりに参加。平

和行進今日から県内に。6/2の県高齢者大会には野党各党からメッセージが届いている。

（静岡）

⑤福祉生協の位置づけで主に介護事業行っている。26単協が加盟している。



高齢者の生きがい活動。介護保険の改悪で軽度の人切り離されているが、国がやらないなら自分たちで主动作为していく。（高齢協）

新規加盟団体「日本高齢者生活協同組合連合会」
副理事長 田尻孝二氏

⑥昨年の座り込み後、予算要求厚労省交渉を議員会館会議室という大きな場所で行うことができた。40年来の画期的なことで続けていきたい。（東京）

⑦高齢期運動サポートセンターの活動紹介。高齢者人権条約めざす今年の国連WGには8人が参加する。（サポートセンター）

⑧高齢者部会は90～100の事業団。フランスでは「60歳以上は働かない」日本の社会保障のお粗末さ示す。雇用・住宅も社会保障の位置づけを。（建交労）

⑨国保事業の県単位化で要望書提出した。18歳未満の医療費は無料だが、震災対策に終わらないよう要請。（福島）

武市事務局長代理が活発な議論のお礼とまとめを行い、①後期高齢者医療負担2割化阻止の運動を各県で強めよう、②安倍内閣退場を地域の力で、③厚労省交渉要求項目を中央団体と協議し具体化していくことを述べました。

議長が拍手による一括採択を提案し、満場の拍手で全議案が採択されました。

新日本婦人の会中央本部の山元美奈子氏が総会アピールを提案し、満場異議なく拍手で採択されました。

小嶋満彦代表委員（東京高齢期運動連絡会副会長）が「憲法を守り活かす高齢者の運動を今こそ強め、安倍内閣退陣を要求しよう」と訴え、閉会のあいさつを行い午後1時10分

に総会を終了しました。



守ろう憲法 すべての世代の連帯で つくろう安心して住み続けられるまち 第32回日本高齢者大会in熱海 第2回中央実行委員会総会 第32回日本高齢者大会in熱海中央実行委員会

第32回日本高齢者大会in熱海 第2回中央実行委員会総会が2018年5月19日(土)14時から東京都生協連会館会議室で行われました。参加者44人で都道府県高連から青森・福島・群馬・茨城・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・富山・長野・静岡・愛知・三重・京都・大阪・奈良・兵庫・島根・香川・徳島・愛媛・大分の23都府県26人、中央団体から医福連・民医連・年金者組合・建交労・全生連・新婦人・高齢協・婦人民主クラブ・サポートセンターの9団体13人でした。

14時定刻に松本弘道代表委員(日本医療福祉生活協同組合連合会常務理事)が開会を宣言し、挨拶しました。引き続き、議長提案を行い、大河原貞人日本高齢期運動連絡会事務局次長(神奈川高連)を提案し、満場の拍手で確認しました。



中央実行委員会 藤末衛 委員長

藤末衛中央実行委員長(全日本民医連会長)があいさつし、「安倍9条改憲で5月中の発議を狙っていたのを阻止したのは成果と言っていい、新潟県知事選、総裁選、沖縄県知事選とたたかいは続くが頑張ろう、これからワー

キングプア世代が60代となる、高齢期運動は横に地域に繋がっていき、メジャーだという運動をつくり高齢期の運動から日本を変えよう」と訴えました。

武市和彦事務局長が以下の議案を提案しました。

【第1号議案】熱海大会の参加要項

【第2号議案】熱海大会の成功に向けた今後の強化方向

中山晴夫事務局次長が以下の議案を提案しました。

【第3号議案】第33回日本高齢者大会の開催地については 福島県とする

質問を含めて以下の12名が発言しました。

①福島・橋本事務局長より、第33回大会開催の決意表明。10月初めには県実行委員会を立ち上げる。9月25～26日の平日を予定している。記念講演や被災地見学等についても案が出された。



福島県高運連
橋本憲幸事務局長

②目標増やす。3つの講座・分科会を担当して参加したい。県大会は10/31(埼玉)

③県大会は11/23行うので講師等の援助を(青森)

④浜矩子さん講師で兵庫県大会を行った、歯切れのよい話で良かった。10/23に近畿ブロック会議行うので参加目標引きあげる議論したい(兵庫)

- ⑤新潟県知事選は6/10投票、連合も推薦し攻勢的にたたかっている。高齢期運動は学習と行政交渉。大会は2泊3日で河口湖へ（新潟）
- ⑥福島開催は大歓迎。講座分科会では国際問題も取り上げてほしい。大会はツアーも組む。東京のつどい9/21（東京）
- ⑦沖縄県知事選支援ツアーを11月上旬計画。学習会と文化行事を毎月行っている。大会は目標増やす検討。（大阪）
- ⑧東京大会に57人参加で高齢者大会が会員内で可視化。沖縄は16人参加予定だったがプレ企画を50人で行った。11/11に宮古島ツアー行う（婦人民主クラブ）
- ⑨熱海大会の次の週に県大会を行う。大会目標増やす（愛知）
- ⑩講座分科会では国際情勢や経済問題の学習を。免許証返納や敬老乗車証の問題などある

- ので高齢者の交通権の問題も（京都）
- ⑪交通権問題では80歳でも車に乗っている現状。第34回は関西から西での開催要望、2007年から3回しかない（香川）
- ⑫東京大会と同じ勢いで取り組んでいきたい（年金者組合）

武市事務局長が議論のまとめを行い、参加目標増と参加者組織が重要と訴え、講座・分科会について出された要望は企画委員会の事務局で検討することを述べました。

議長が拍手による一括採択を提案し、満場の拍手で全議案が採択されました。

大河原貞人事務局次長が、後期高齢者医療費2倍化阻止など、様々な運動の高揚の中で高齢者大会を迎えようと閉会のあいさつを行い、午後3時55分に総会を終了しました。



5・17「社会保障・社会福祉は国の責任で」学習懇談会開く 井上英夫サポートセンター理事長が講演



「社会保障・社会福祉は国の責任で」学習懇談会が同実行委員会の主催で5月17日午後2時から衆議院第一議員会館大会議室で行われました。午前中の憲法と介護の署名提出議員要請行動に引き続き200人以上が参加しました。

この実行委員会は一昨年・昨年と5月に日比谷野外音楽堂で集会を行ってきましたが、今年は10月の中央行動をめざして取り組みを広げようと、第一弾としてこの学習懇談会を行いました。同実行委員会には、日本高齢期運動連絡会も事務局団体として加盟し、中央社協・全労連・全生連はじめ障害者団体・福祉団体も多数参加しています。

初めに、金沢大学名誉教授井上英夫先生（高齢期運動サポートセンター理事長）の講演「憲法25条を守り、活かそう！」がありました。講演では、2012年の「社会保障制度改革推進法」の制定により憲法25条はすでに

「改憲」されている、そこでは社会保障を自
助・共助・公助とした、公助とは「助けます
よ」ということで支援になる、そうではなく
社会保障とは国民の権利であり、公が保障す
る義務であり、国や自治体に責任があること
だ、平和的生存権の意味から憲法9条と25条
は一体のものである、と強調されました。そ
して、憲法97条を実践し、社会保障レポリュー

ションで頑張らなくても良い社会を創ろうと
訴えました。

学習会後は、各団体や県社保協からの報告
がありました。10月25日に予定している中央
行動へ向けて各県・各団体で憲法25条を守る
共同の取り組みを進めようとの行動提起を確
認しました。

一人ぼっちの高齢者をなくし、健やかに住み続けられる地域社会をつくろう

5・20「第6回山形県高齢者大会」 五月晴れの中、平和憲法守れと上山市に500人が集う 山形県高齢期運動連絡会

一人ぼっちの高齢者をなくし、健やかに住
み続けられる地域社会をつくろうと山形県上
山市で5月20日に「第6回山形県高齢者大会」
が開催されました。

4つの分科会で深め合い、語り合い思いを共有

- ①第一分科会では介護保険の改悪を許さず公
的介護保障充実を
第二分科会では、国の責任で安心できる年
金制度の改革を
第三分科会では、健康寿命を伸ばし、一人
ぼっちの高齢者をなくす地域の活動につい
て
第四分科会では、憲法9条を守り、戦争で
きる国づくりにストップをテーマに活発な
討論が行われました。

- ②第三分科会では、地元上山市の元市教育長
の小関文助先生が「健康寿命を伸ばし、一
人ぼっちの高齢者をなくす地域活動」につ
いて講演し、健康の維持、生きがい意識の
持続、安全安心についての高齢者の課題に
ついて提起し、健康寿命を伸ばす7つのポ
イントを話されました。(1. バランスのと
れた食事とよく噛むこと2. 体力に合った運
動、3. 脳の活動を活発に一読む、書く、
話す、学ぶ、計算する一日記をつける、4.
人生の喜怒哀楽、5. 楽しい交流―地域行事
への参加、6. 健康には歌と笑い、7. 生きが
い意識)

人、地域、福祉の関係で人は支えあって人
となる一人が地域をつくり、地域が人を育
てるし、福祉活動が人を育む。

山形市では、ともに支えあい、繋がり広が
るまち「山形」(1. 福祉教育の推進、2. 拠
点を生かした地域福祉活動、3. 福祉課題を
総合的に受け止める体制、4. 地域の相談機
能、5. 災害に備えた防災体制)を推進して
いることが報告されました。

最後に小関先生の元気の出るロゴは『希望
で起床、感謝で就寝』1日一笑、一笑・1若
と講演を締めくくりました。



第3分科会一人ぼっちの高齢者をなくす地域活動につ
いて講演する小関文助先生

講演を受けて地域で実践している活動について報告

- ①医療生協やまがた鶴岡第一学区支部の佐藤
勝士さんが月2回のたまり場活動を小学校
区でコミセンや公民館を使って健康体操や

マジック、健康講話などサロンを開催し、鶴岡市の介護予防支援事業に応募して進んでいることを報告しました。



報告する医療生協やまがた第一学区支部
佐藤勝士さん

してきたことを報告し、引き続き沖縄連帯募金の訴えを松浦猛将事務局長が行い、松本ヒロさんの公演に入りました。



第3分科会参加者200人の参加

- ②最上町社会福祉法人やまなみの大場さんが2年前から「認知症カフェ」を開設し認知症の人同士の交流と地域住民との触れ合い、認知症についての理解を深めるためにサロンを開き、認知症当事者、その家族、地域住民、専門職の参加という4つの視点を大切に、楽しい文化行事、語り部、紙芝居、ヴァイオリン、冒険家の話を聞く会等開催し、17年度は180人を超える参加者で地域から認められる運営を報告しました。
- ③やまがた福祉生協山形事業所ねの子訪問介護事業所を拠点に地域の方や組合員と一緒に月に2回、3B体操、麻雀、囲碁・将棋を楽しみながら開催していますと地域運営委員の鬼嶋さち子さんの報告がありました。
- ④会場から挙手で、村木沢300戸の地域に10の集落があり介護施設も含めいっぱいあり、いきいきサロンが9つある。我々は元気モリモリサロンで頑張っている、これからも小関先生の健康講話で話されたことを地域でやっていきたいと発言されました。

オープニング地元のアコーディオン・尺八演奏

全体会は武田道隆大会実行委員長の挨拶に始まり、山形県知事吉村美栄子知事の代理で村山総合支庁長と上山市横戸長兵衛市長の熱烈的な歓迎挨拶で開幕しました。

続いて午前中の4つの分科会の報告が行われ、その後3月に沖縄訪問を行い辺野古に新たな基地をつくらせない座り込み活動に参加して高齢者大会で集めた100万円募金を手渡

爆笑コメディ『安倍政治を笑い飛ばそう』の舞台公演

松元ヒロさんが80分間熱演され、笑うに笑えない現実に打ちひしがれながら大きな口を開けて笑い飛ばしていました。

参加者は、ああスッキリしたと感想を述べていました。それにしても、モリカケ問題や、公文書偽造問題、セクハラ問題、すべて安倍首相に責任があるとみんなが思っているのにああ”なさけない”の声もしきりと聞こえてきました。

また、公演の途中で高齢者大会の横断幕が半分落ちてきて会場は大笑い、ヒロさんはこれも笑いのネタに組み込み一件落着きました。(前代未聞の珍事件)

松元ヒロさんは最後に憲法問題に触れ、平和憲法の憲法前文を高らかに謳い上げ、平和憲法を守ろうと呼び掛け講演を締めくくりました。

地元上山実行委員会の奮闘

地元上山実行委員会は、会場設営や弁当の準備、物産店の準備と田植えの最中に大変ご苦労かけました ありがとうございます。

分科会も松元ヒロ公演会も参加者に大きな勇気と元気を与えてくれる大会となりました。

(鶴岡・田川地区高齢期連絡会 事務局長 菅原文男)

第27期日本高齢期運動連絡会役員

1. 代表委員

金子民夫(全日本年金者組合)
松本弘道(日本医療福祉生活協同組合連合会)
林泰則(全日本民主医療機関連合会)
小嶋満彦(東京高齢期運動連絡会)

2. 運営委員

①都道府県連絡会

東京高齢期運動連絡会
神奈川県高齢期運動連絡会
埼玉県高齢者運動連絡会
千葉県高齢者運動連絡会
茨城県高齢期運動連絡会
長野県高齢期運動連絡会
静岡県高齢期運動連絡会
愛知県社保協高齢期部会
高齢者運動連絡会近畿ブロック

②中央団体

日本医療福祉生活協同組合連合会
全日本年金者組合
全日本民主医療機関連合会
新日本婦人の会
全国生活と健康を守る会連合会
全日本建設交運一般労働組合
全国保険医団体連合会

3. 事務局長

武市 和彦

4. 事務局次長

田中諭(全日本年金者組合)
(建交労)
大河原貞人(神奈川県高連)
田中英男(茨城県高連)
寺崎由郎(三重県高連)
中山晴夫(日本高齢期運動連絡会)

5. 会計監査

(関東甲信越ブロック連絡会・)
秋山明子(全日本建設交運一般労働組合)

6. 顧問

篠崎次男(日本高連元事務局長)
上坪 陽(日本高連元代表委員)

第32回日本高齢者大会in熱海中央実行委員会役員

1. 中央実行委員長

藤末衛(全日本民主医療機関連合会会長)

2. 事務局団体

①都道府県連絡会

東京高齢期運動連絡会
神奈川県高齢期運動連絡会
埼玉県高齢者運動連絡会
千葉県高齢者運動連絡会
茨城県高齢期運動連絡会
長野県高齢期運動連絡会
静岡県高齢期運動連絡会
愛知県社保協高齢期部会
高齢者運動連絡会近畿ブロック

②中央団体

日本高齢期運動連絡会
日本医療福祉生活協同組合連合会
全日本年金者組合
全日本民主医療機関連合会
新日本婦人の会
全国生活と健康を守る会連合会
全日本建設交運一般労働組合
全国保険医団体連合会

3. 中央実行委員会事務局長

武市 和彦(日本高連事務局長)

4. 事務局次長

田中諭(全日本年金者組合)
(建交労)
大河原貞人(神奈川県高連)
田中英男(茨城県高連)
寺崎由郎(三重県高連)
中山晴夫(日本高齢期運動連絡会)

事務局長就任のご挨拶

日本高齢期運動連絡会 事務局長 武市 和彦



5月の総会で日本高齢期運動連絡会事務局長に選任いただきました武市和彦と申します。

高齢期運動との直接の関わりは、第30回日本高齢者大会in東京開催めざす東京実行委員会に事務として関わったことです。東京大会では大会成功めざす地域実行委員会づくりを担当し、大会では全体会の進行役を務めました。

現在高齢期の問題として経済問題、健康問題、孤立、家族と地域社会の変化から来る生活上の困難があります。中でも経済問題は深刻となっています。年金だけでは生活できない高齢者が多くなっていきます。今後、後期高齢者医療制度の2割負担や、消費税増税などが実施されれば、病気になっても病院にかかれない高齢者が多くなり、健康問題も深刻になってきます。

高齢期問題の解決にはいうまでもなく、社会保障・社会福祉の拡充が必要です。また、高齢者の日々の暮らしに視点を当てた取り組みが必要になってきます。そのことを高齢期運動連絡会の方針の中に位置づけてゆきたいと考えています。

当面は後期高齢者医療制度2割負担の阻止にむけて地域のさまざまな団体に呼びかけ、共闘組織をつくりあげることが必要です。そのことを全国的に呼びかけてゆくこと、その闘いの結節点として11月25・26日開催の日本高齢者大会in熱海を延べ4000人の参加で成功させることです。

みなさんのご協力を宜しくお願いいたします。

◇新規加盟団体のご紹介

「日本高齢者生活協同組合連合会」

住所 〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-4-4-3
ISPタマビル7階

高齢協は「仕事、福祉、生きがい」づくりの協同組合です。

高齢者協同組合は、「寝たきりにならない、しない」

「元気な高齢者がもっと元気に」を共通の目標として、仕

事・福祉・生きがいの3つを活動の柱としてきました。また、介護保険制度のスタートを機に、ワーカーズコープと共に地域福祉事業所づくりを進め、高齢者の社会参加と地域福祉の充実に取り組んでいます。さらに、高齢者の主張大会や葬送研究会、健康づくりや趣味の交流など、高齢者自身が主体的に参加し、高齢者同志や他世代との交流・連帯による、安心して住み続けられる地域づくりをめざし、全国の仲間の組織化に取り組んでいます。

(日本高齢者生活協同組合連合会HPより一部抜粋)



◇第32回日本高齢者大会in熱海は会場と宿泊先が同一となります。

各県でツアーを組む場合も、個人・小グループで参加する場合も、11月25日（日）の宿泊は必ず中央実行委員会の指定する「ニューフジヤホテル」「ホテル大野屋」をお願いします。

同ホテル内で全体会・講座分科会会場（夜の企画含む）を確保するうえで、貸し切りが条件となります。一定数以下だと会場が確保できなくなる恐れがあります。

宿泊料金は1泊2食（税・サ込）13000円

参加・宿泊の受付は8/20より「勤労者レクリエーションセンター」で行います。

(TEL03-3984-0401 Fax03-3984-0407)